

# 村半

## 高山市 若者等活動事務所

村半（高山市若者等活動事務所）とは

飛騨高山の城下町中心部、歴史ある町家の建ち並ぶ古い町並（下二之町大新町伝統的建造物群保存地区）の大規模な町家「旧村田邸」を活用し、若者による地域活性化を推進するための市の事務所として改修整備したまちなかの拠点施設です。（令和二年七月 供用開始）この村半を舞台として、市内外の若者が様々な活動を通じて結びつき、飛騨高山のまちの未来づくりにつながることを目指しています。

### 愛称「村半」の由来

▼村半（むらはん）は、明治大正期の所有者で、隣家の統合や増改築など、ほぼ現在の建物の姿にした実業家村田 半六（むらた はんろく）にちなんだ屋号です。現在も地域の人々からこの町家の呼称として、親しみを込めて使われ続けています。

### 旧村田邸の概要

▼明治八年の大火直後に再建（主屋大戸に墨書きあり）された築百四十年以上の建物を主屋とし、左手にはまゆ倉庫と呼ばれる梁や壁などをとりはらった吹き抜けの大空間を配し、中庭を挟んだ背面には、三棟四つの土蔵が建ち並ぶ、空間の多様性に富んだ町家建築です。

▼敷地面積は約六百九十㎡（二百九坪）、間口は十三間半（約二十五メートル）に及び、城下町高山のなかでも最大級の建築規模を有します。

▼改造は最低限で、保存状態も良く、昔の人々の暮らしぶりを随所に偲ぶことのできる歴史的価値が非常に高い建築物です。

▼国により重要伝統的建造物群保存地区内の伝統的建造物として特定されるほか、景観重要建造物の市指定を受けるなど、貴重な文化財として保護対象になっています。

▼民芸運動を主導した柳宗悦と交流があったほか、日本画家村田瑞枝の生家であるなど、文化的な側面も有しています。

### 位置図



古い町並（下二之町大新町伝統地区）内、JR高山駅より徒歩 10 分



主屋吹き抜け

### 施設の設定目的

内外の若者がしたいことを実現できる場づくり

伝統建築の保存、良好な町並景観の維持

次代を担う若者達が地域でいきいきと暮らし、活動することを通じ、飛騨高山に誇りと愛着を育む

伝統的建造物群保存地区及び周辺の景観に配慮された美しい町並みを維持する

地域全体の活性化、将来に渡って持続可能なまちづくり

### 利用等の方法



台所のかまど、手押しポンプの井戸

#### ①利用者

▼あらかじめ登録申請書を事務所に提出してください。（十八歳の年度末までの利用者は、保護者の承諾が必要）

▼利用中は、事務所の交付する登録証を携帯し、入退所時には事務室（ミセの間）まで申出てください。

▼占用して利用する場合は、占用申出書を提出し、事務所の許可を得てください。（受付は、利用の1年前から当日まで）

#### ②使用者

▼あらかじめ使用申出書を提出し、事務所の許可を得てください。（受付は、使用の半年前から5日前まで）

▼別途料金表による費用の負担が必要です。費用は公益上の理由などから減免等する場合があります。

#### ③その他（一般開放）

▼利用者及び使用者に支障のない限り、所内のルールに従って、自由に見学や休憩等ができます。（事前予約や記名等は不要）

※各様式は、HPに掲載しています。ご不明な点等は、お気軽にお尋ねください。

村半  
MURA HAN

### 村半でできること

例えば

- 自主学習や学校行事、研究活動など学びの場
- 部活やサークル、展示、発表、文化活動などの場
- 会議、談話、相談など話し合いの場
- 映像視聴や読書、演奏、写真撮影、仲間づくりなど若者等の日常的な居場所
- 祭文化の伝承の場
- フィールドワークの拠点、サテライトキャンパスとしての場

### 村半ではできないこと

例えば

- ×生業等として対価を得て行うこと（内容を問わず）
- ×政治 宗教活動に関すること
- ×青少年の健全育成上、望ましくないこと
- ×近隣住民や他の利用者に迷惑となること
- ×壁等へのくぎや画鋲、テープ類の使用
- ×喫煙（加熱式等を含む）
- ×火気の使用
- ×アルコール類の飲用
- ×展示・販売
- ×施設等の汚損、損傷
- ×ゴミや私物の放置
- ×その他、管理者が不適当と認めること

※管理者の書面による許可を得た場合を除く



季節感や癒しを感じられる中庭（北庭園）



設置者:高山市  
担当課:企画課

〒506-0842  
岐阜県高山市下二之町 6

開所時間 9:30～21:30

休所日 火曜、年末年始

☎ 0577-70-8753

✉ murahan@city.takayama.lg.jp

HP 村半



2021.4



# 施設案内 見所紹介

# 料半

施設看板やチラシなどで使用する題字は、飛騨高山高校書道部による揮毫

## まゆ倉庫

創建時は通常の町家でしたが、主屋とともに村田半六の手に渡り、壁や床の一部が取り外されるなど吹き抜けの大空間に改造され、「高山まゆ市場」として製糸・養蚕業に利用されました。小庇がなく大型の引戸が入られた姿は古い町並では珍しいですが、当時の一般的な倉庫の形式です。

## 大会議室



シアター形式(イスのみ 60名)

主な設備・機能: 大型スクリーン、プロジェクター、演台、マイク  
音響・映像機器(TV、CD、DVD)、照明、冷暖房、防音  
テーブル、イス、ホワイトボード、掲示用ボード

## ★絵馬

家内安全や商売繁盛を祈願する縁起物家の入口に、馬が駆け込むよう掲げる



## ★手筒花火

厄落しとして毎年8/9に宮川河畔を彩る飛騨高山の夏の風物詩



## 土蔵

瓦やタン屋根がなく広範囲を焼き尽くす大火災が度々起こった時代、燃えにくい土蔵は、火災から財産を守るものとして、非常に大切にされました。村半は、南蔵(炭蔵)、中央蔵(見付蔵)、北蔵(文庫蔵)と、建てられた年代や用途等の異なる3棟4つの土蔵があります。並んで建てられているため、背面からの類焼を防ぐ「防火帯」の役割も果たします。



昭和20〜30年頃の貴重な写真

## 通り土間



スクール形式(テーブル・イス 36名)

## 主屋

正面のべんがら(弁柄)塗りの朱色、腕木の胡粉塗りの白色のコントラストが印象的な建造物です。築140年余の本棟、明治・大正期に増築された別棟でなす三列型の空間構成で、本二階建ての別棟は中二階建ての本棟よりも天井高があり、建築年代の違いが見てとれます。

囲炉裏から立ち上る煙で真っ黒になった小屋組みや土壁、明かり取りの窓から降る柔らかな光、ミセの間に残る蓐戸(しとみど)、技巧を凝らした建具、格式の高い本座敷など、随所に昔の人々の暮らしぶりを偲ぶことができます。

今回の改修においても、快適性の向上などよりも歴史的価値の保存を最優先しており、従前のままの姿を留めています。

## 南蔵1階



主な設備: 机・椅子、カウンター  
電子レンジ

## 南蔵2階



主な設備: ローテーブル、座布団  
衝立(スクリーン)

## 中央蔵1階



主な設備: テレビ、DVDデッキ  
スピーカー、ソファセット

## 中央蔵2階



主な設備: ハイテーブル、スツール  
電子ピアノ、撮影キット

## 北蔵1階



主な設備: ダイニングテーブル、イス  
収納棚

## 北蔵2階



主な設備: 平机、座布団、座椅子  
収納棚、スタンドライト

## 中庭

草木や石材など身近に自然を配置することで、人々に癒しを与える効果があります。本座敷にお招きした客人をもてなしたり、空間があることにより、光を建物の奥まで取り込んだり、風通しを良くするなどの機能も有しています。



## 台所



主な設備:  
調理器具一式  
冷蔵庫  
オープンレンジ  
木製食器類

## 本座敷

書院造りの15畳の大広間。節目の行事に使用したり、大切なお客様を接待するなど、他の部屋とは別格に扱われます。床柱や天井など良材が随所に使われるなど、華美でないながらも非常に繊細に造られており、和紙貼りの壁(紙床)の意匠は、民芸運動の主導者「柳宗悦」も称賛したとのこと。



## ★高校生家具

ものづくりの道を志す地元の工業高校生が工夫を凝らして製作した、地域産材使用の家具



## ★しけ絹3連スクリーン

本物の蚕の糸で織られたスクリーン(城端しけ絹)と村半縁者の大工さんのコラボレーション

## 南庭園



## 多目的トイレ

湯殿(風呂)だった建屋をそのまま活かして整備。マキをくべた口、煙突が通っていた穴、土壁などで面影を見ることが出来る

主な設備: チャイルドキープ  
大型ベッド、触地図  
オストメイト(一体型)



## 授乳室



## ★井戸

レトロなポンプで地下水を汲み上げ(井戸水は飲用不適)

## 囲炉裏の間

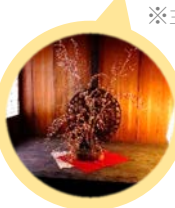


満車時は、換装館  
又は体験交流館へ

★飛騨春慶テーブル  
建物に残されていた長持を、木地を整え春慶塗り・彫金を施した総合芸術としてリメイク



## 座敷



## ★飛騨の花餅

★前庭の切抜き戸  
大切なお客様をケの場(日常の生活空間)を通らず、ハレの場(非日常)へ案内

## 前庭(坪庭)



## ★風炉先屏風



地元の木工芸術スクール訓練生が飛騨山脈(北アルプス)をモチーフに創作  
※同スクール生らの創作家具は他にも多数

## 茶室



## ★釘隠し



## ★ゆらゆらガラス(吹きガラス)

寄贈を受けた近代に作られたガラスを中庭との親和性の良い建具に設置(かまどの上部)  
※主屋にも同様のガラスが多数

## ★電柱、電線の欄間

電気がない時代に建てられ、近代化とともに電気のある時代へと移り変わるなかで、モダンな暮らしの象徴としてモチーフとなったと考えられる

## ★ふすま引き手(つぼつぼ)

